

新型コロナウイルスの影響下における試合運営ガイドライン

(令和2年7月13日作成版)

今後の持続的な対策を見据え、「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」及び、「HKFA 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」に基づき第3種委員会としてのガイドラインを策定しました。各種事業を再開するに当たっての道筋や基準を整理し、また、事業再開時及び再開後における感染拡大予防のための留意点を「手引き」「チェックリスト」としてまとめましたので、参加チームは十分理解した上でチーム運営及び、試合運営を行ってください。

1, 試合開催の判断基準

- (1) 釧路市他、関連する自治体の方針に従う。
- (2) 選手全員が試合に向けたコンディションが整っている。
- (3) 選手、スタッフが日常において「新しい生活様式」に従って感染対策を実践している。
- (4) 試合会場において、十分な感染防止対策を実行できる。

2, 試合開催時の感染防止対策

(1) 事前の対応

- 感染対策担当者の設置 総括 …第3種委員長 沼田（鳥取西中）
試合当日…参加チーム責任者（監督）及び、会場責任者
※当日必ず会場にいる者が担当者となることが原則

【感染対策担当者の役割】

- ①チーム責任者…参加者全員（選手、スタッフ、審判員など）の健康チェックシートを回収し内容をチェックした上で、会場責任者へ提出する。
 - ②会場責任者 …必要物品や会場表示物の設置など、試合会場の衛生管理。
チームから提出された健康チェックシートを受理し、その場ですぐに内容をチェックする。健康チェックシートは「試合日」「チーム毎」にわかりやすくまとめ、第3種委員長に提出する。
 - ③第3種委員長…会場責任者から提出された各チームの健康チェックシートを4週間保管し、その後破棄する。
- 参加予定者（選手、スタッフ、審判員など）は下記の項目を事前確認する。
 - ①以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせること。
 - ・体調が良くない場合（例：発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

②参加者全員、毎試合ごとに健康チェックシートを提出すること。

【健康チェックシートを忘れた場合】

原則参加できない。ただし、学校などで毎日チェックしていて、そのことを証明できる場合はその限りではなく、当日検温を会場にて行う。またその場合、選手の保護者に連絡し参加承諾を得ることが必要。スタッフや審判員についても、過去2週間の自身の健康状態を証明できない場合は、参加できない。

③参加者全員がマスクを着用すること。

⇒高温や多湿といった環境下では、屋外で人と十分な距離が確保できる場合にはマスクを外しても構わない。

④大会に参加する上で釧路地区サッカー協会が示す注意事項を遵守すること。

⑤大会参加中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況を記憶しておくこと。（感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立ちます）

●来場（観戦）予定者は下記の項目を事前確認する。

①無理な来場は見合わせる。

- ・体調が良くない場合（例：発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

②マスクを着用する。

③社会的距離（2m、最低1m）を保ち、ハイタッチ、抱擁などの行為は避け、大声での声援も控える。

④手洗い、手指消毒をこまめに行う。

⑤会場での食事は控える。

⑥飲み切れなかった飲み物を会場内には絶対に捨てない。

⑦ごみは必ず持ち帰る。

（2）会場における対応

●手洗い場とトイレに、ポンプ型の液体または泡石鹸を設置する。

●本部席にアルコール消毒液を用意する。

●ベンチでは間隔（2m、最低1m）を空けて座れるようにする。

●試合開始前にボール、レフリーフラッグ、4審用机椅子を消毒する。

●試合終了ごとにベンチの消毒をする。

（3）試合前における対応

●マッチミーティングは実施しない。

●ユニフォームカラーの決定は、両チーム間で行う。

●ウォーミングアップ中、選手及び審判員はマスクを着用しなくてよい。コーチングスタッフは、各自で判断する。

- 用具チェックは、社会的距離を確保して行う。
- 試合前の挨拶はW杯方式のセレモニーとするが、相手チーム、審判団との握手は行わない。
- コイントスは、社会的距離を確保して行う。
- ピッチ上で円陣を組むことは行わない。

(4) 試合中における対応

- ベンチ入り選手9名、交代選手数は「自由な交代」で9名まで認める。
- 飲水ボトルを共用できないことを考慮し、前後半それぞれ1回以上の飲水タイムを設ける。
回数については、当日、当該試合の主審及び競技責任者が判断し、試合開始前に決定する。
- ベンチでは間隔（2m、最低1m）を空けて座る。
- ベンチの選手及び、チームスタッフは、マスクを着用する。ただし、高温や多湿といった環境下では、マスクを外しても構わない。
- 倒れた選手に手を貸さない。
- 選手が密集して喜び合うことは自粛する。握手、ハイタッチ、抱擁は行わない。
- ボトルを共有しない。
- 水、氷を溜めたクーラーボックスなどを共用しない。
- タオルを共用しない。
- ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離について配慮する。

(5) 試合後における対応

- 試合終了時の挨拶はW杯方式のセレモニーとするが、相手チーム、審判団との握手は行わない。
- 両チームベンチ前及び、観客前での挨拶は行わない。

これら（1）～（5）を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。参加チームは、その点を理解した上で、大会に参加してください。

3. 事後対応

- (1) 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報取り扱いに十分注意しながら、試合当日に参加選手、スタッフ、から提出された健康チェックリストを、保存期間（少なくとも1ヶ月）を明記した上で保存しておく。
- (2) 万が一チーム関係者（選手、スタッフ、その他関係者）の中から試合終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、保健所の指示に従うとともに、JFAにその旨ご報告ください。
- (3) チーム関係者に新型コロナウイルス感染者が出た場合は、当該チームのリーグ戦参加を2週間見合わせる。
⇒複数チームでリーグ戦に参加している場合は、その全てのチームに適用される。